

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	心理総論Ⅴ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	前期 木曜 3限	教室名	5校舎9階
担 当 教 員	小川 正子	実務経験とその関連資格	医療法人杏嶺会上林記念病院心理療法科に心理士として勤務し、カウンセリングや心理検査業務に従事した。色彩福祉士、公認心理師取得。			
《授業科目における学習内容》						
色彩福祉検定合格に向けて、色彩心理学や色彩心理学を応用した障がい者や高齢者支援について学ぶ。高齢者の身体的特性、社会的特性、心理的特性について学ぶ。また、色彩で表現される心理や、色彩が心に及ぼす影響についても学ぶ。高齢者福祉の発展、関係法規、認知症にいて学ぶ。11月に実施される色彩福祉検定受検予定。						
《成績評価の方法と基準》						
試験素点70%、出席評価点20%、平常評価点(レポート、授業態度、ノート等)10%とし、優80点以上、良70点～79点、可60点～69点、不可59点以下と評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
使用テキスト「色彩福祉検定®3級公式テキスト」 参考図書「新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度」「ケア・コミュニケーション(ウィネット)」						
《授業外における学習方法》						
高齢者福祉の変遷を調べてまとめる。自分が生活する地域の医療や福祉を調べる。 福祉の施設展などを見学に行く。また、過去の問題例を早期にとりくむため、復習をすること。						
《履修に当たっての留意点》						
色彩福祉検定は、単に色彩心理学を学ぶだけでなくその応用としていかに人をサポートするかを考える学問です。違った視点で対人援助を考えてみましょう。また、資格検定を受検するものであることを意識しておいてください。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	過去問題の該当箇所を解くことができる。		教科書 PPT	高齢者福祉制度を見直す
		各コマにおける授業予定	授業のオリエンテーション。色彩福祉検定とは。 「高齢者福祉の現状①」			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	制度や法体系の変遷に関する過去問題を解くことができる。		教科書 PPT	模擬問題に取り組んでおく
		各コマにおける授業予定	「高齢者福祉の現状②」高齢者保健福祉の発展と法体系について学ぶ。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の身体的・心理的特徴に関する模擬問題を解くことができる。		教科書 PPT	1年次の「医学一般」から身体の機能及び構造を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	「高齢期の身体的・心理的特徴」加齢に伴う身体機能の変化と心理的影響や、加齢に伴う心理的機能、パーソナリティの特徴について学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	心理学検定や精神保健福祉士国家試験などの関連する問題を解くことができる。		教科書 PPT	参考テキストから、該当する箇所について読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「高齢期の精神疾患」巣症状、認知症、高齢期に特徴的な精神疾患について学ぶ。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	高齢者の心理的特徴について、自分の言葉で説明できる。		教科書 PPT	1年次のケアコミュニケーションのテキスト「障害者とコミュニケーション」について復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「高齢期の心理療法」リアリティ・オリエンテーション、回想法、バリデーションセラピーなど、高齢者及び認知症に対する心理療法をマナう。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	6割の正答率に到達すること。		これまでの授業内容を見直しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「高齢期のまとめ」色彩福祉検定、心理学検定、精神保健福祉士国家試験問題の過去問題から、関連領域を抽出し、中間試験を行う。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	色相環と色調図を書くことができる。	教科書 PPT	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色と配色」色相と色調による色の表記の仕方と、それらに基づく配色の仕方について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	色彩福祉検定の過去問題と類似の配色に関する模擬問題を解くことができる。	教科書 PPT	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「アンダートーンシステム」色相と色調をアンダートーンシステムに分類し、アンダートーンシステムに基づいた配色について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題を解くことができる。	教科書 PPT	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色を見るしくみ」目の構造と機能、光の原理について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題を解くことができる。	教科書 PPT 着彩テスト 色鉛筆	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色の心理効果」色彩の知覚における現象(同化、対比、軽重感など)について概説する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題を解くことができる。	教科書 PPT	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色の心理」着彩テストなどを通して、色彩から読み解くことができる色の意味を学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	6割の正答率に到達すること。	教科書 PPT	これまでの授業内容を見直しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「色に関する模擬問題」第7回から第11回で学んだ内容を、中間テストとして実施する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題をとくことができる。	教科書 PPT エッセンシャルオイル	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色と香り」色はアロマとも関連していること、アロマは色を連想させる。応用として、アロマセラピーについて学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題を解くことができる。	教科書 PPT 色福カード	教科書の当該箇所を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「色彩交流法」子ども・高齢者・認知症の患者さまと関わる一つの技法として色彩交流法を学び体験する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	模擬問題を解き、正答率6割から7割に到達することができる。	教科書 PPT	模擬問題を振り返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ「高齢者の福祉と法体系、老化、心理療法、色彩理論」に関する問題を解く。		